

# レポート・論文作成講座[1] 入門編 「レポート」という文章の特性を知ろう！

学修・研究支援センター 准教授  
森玲奈

## 今日の到達目標

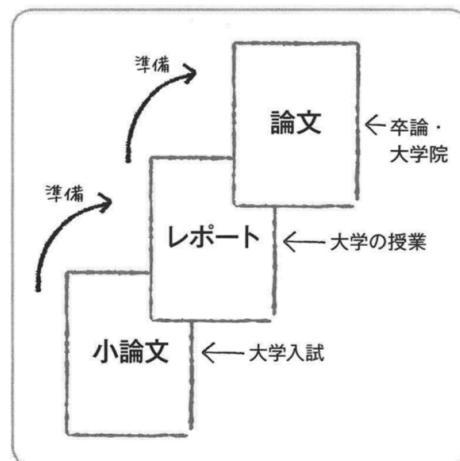
- レポート・論文の文章特性を説明できる。
- レポート・論文の文章表現の特徴を説明できる。
- 自分なりの「論文提出前チェックリスト」が作れるようになる。

## 小論文・レポート・論文の違い

	時期	目的	問い	ウソ	オリジナリティ
小論文	高校	試験に合格	与えられる	ある程度許容	不要
レポート	大学	理解を報告	与えられる	認められない	必須ではない
論文	大学・大学院	発見を論証	自分で立てる	認められない	必須

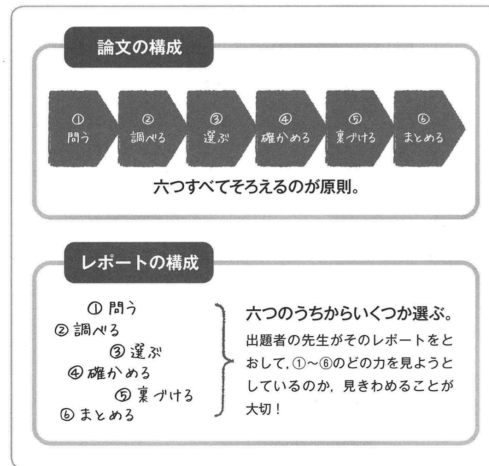
出典:石黒圭(2012)論文・レポートの基本. 日本実業出版社.

## 小論文・レポートは論文の練習



出典:石黒圭(2012)論文・レポートの基本. 日本実業出版社.

## 論文とレポートの構成の違い



出典：石黒圭(2012)論文・レポートの基本. 日本実業出版社.

## レポート・論文をひとことで言うと

**レポート ⇒ 先生から与えられた問いに答える文章**

**論文 ⇒ 自分で問いを立てて自分で答える文章**

## 「レポート・論文」は「型」がマスト！

- 小説・エッセイと違い、いつも同じ型で書いてよいので型を覚えて使えば良い。
- 型を規定するのは文章構成のこと。
- この構成は、授業レポート、卒業論文、修士論文、博士論文、学術雑誌論文、全て通用する。

## 大学で書くレポート

- 先行研究をふまえた上で、自分なりの調査や考察を重ねて、どのような結論に達したかということについて、読み手にわかりやすく説明し説得するための文書。
- レポートでは、論理的な構成と、曖昧さを排除した正確な記述を心がけることが重要。

## レポートのタイプ

説明型	内容を理解したかどうか説明する。授業やテキストの内容を十分理解したかどうか、学習成果の説明を求めるための課題である。図書を紹介する「ブックレポート」や、ある事柄について調べる「調べ学習レポート」もある。
報告型	実習での成果を報告する。看護や介護の臨床実習報告、保育や教育実習報告などがあり、様式は決っている。その他、博物館実習報告、フィールドスタディや短期留学の成果報告もある。
実証型	与えられたテーマについて、実験や調査をおこない、その結果にもとづき実証する。
論証型	与えられたテーマについて論証する。テーマを絞り込み、資料を調べ、根拠にもとづき、自分の主張を論理的に組み立てる。

参考：井上千以子(2014)思考を鍛えるレポート・論文作成法(第2版)。慶應義塾大学出版会。

## 「序論」—「本論」—「結論」

- 起承転結はレポート・論文には×
- 「序論」で問いを立て、「本論」で問いに答える具体的なプロセスを述べ、「結論」で答えを示す**3部構成**。
- 「問う」→「調べる」→「選ぶ」→「確かめる」→「裏づける」→「まとめる」という6ステップで行うとやりやすい。出題者の力点にも注目。

## Step0: レポートの手始め

- レポートへの取り組みでは、まずそのレポートがどのような目的で、何について述べようとするものであるのか、**主題をはっきりさせる**ことから始まる。それをレポートの冒頭の**序論**の部分で明示する。
- また、レポートの**タイトル**も重要で、内容を端的に示すものをつける必要がある。タイトルは、全体を書いてから再考するとなお良い。

## Step1: 主題の明確化・明示

- あるテーマに関する**先行研究**を検討し、その内容をまとめる。
- 先行研究をふまえて、自分自身の問題設定を行なう。
- 問題解決のためのデータ収集や調査を行ない、その結果を整理して示す。
- 上記に基いた考察を行ない、結論をまとめる。

## Step2: 構成の決定

- 構成を決める。
- とりあえずは思いつくままに、レポートに盛り込みたい項目を書き出す。
- それから、関連性の高い項目同士をまとめてグループ分けし、提示する順序を考えてみる。
- こうした作業を少し進めてみると、他に何が必要であるか見えてくる。

## Step3: 節・小節に分けて示す

1. 主題の明確化・明示
2. 構成
  - 2.1 構成を決める
  - 2.2 節・小節に分けて示す

新しい節、または小節の始まる部分では、行間のスペースを少し空けると視覚的に見やすくなる。  
分割した節にもそれぞれ小見出しをつける。

## Step4: 先行文献・資料の参照

- 「剽窃(ひょうせつ)」を疑われないために引用関係を適切に記載する。
  - 注で引用文献の情報を示す場合
  - 参考文献一覧で引用文献の情報を示す場合
- 参考文献リストの作成

## Step5: 校正する

- (1) 番号の確認
- (2) 誤字・脱字
- (3) 表記の統一
- (4) 参考文献の照合
- (5) 紙面のみやすさ

タイプミスを減らすには、時間を置いてから読み返す、他人に読んでもらう、自分の思考やパソコンの変換機能の癖を知ることが有効。プリントアウトやPDF化して校正する習慣をつけることも大事。



## 課題

欧米を旅行すると、日本との小さな違いに戸惑うことがある。日本の生活に慣れていると異和感を覚えるが、よく考えてみると、それなりの合理性を備えていることに気づく。たとえば、固定式シャワー。欧米のホテルでは、壁の高い所に固定式シャワーが取り付けられていることが多い。ホース式シャワーに慣れていると、ホースではなく自分の身体を動かさねばならず、不便を感じる。しかし、欧米では、浴槽のなかが洗い場なので、固定式シャワーのほうが建って洗えて便利である。浴槽のそとに洗い場があり、椅子に座って洗う日本とは、その点で対比的なのである。また、湯船でお湯に漬からないぶん、欧米ではお湯が勢いよく出るシャワーが好まれる。そう考えると、ホース式シャワーが選ばれない理由もよく理解できる。それから、レバー式蛇口。欧米では、上げて水を出すタイプのものしか見かけない。欧米のホテルで、水を止めるつもりでレバーを勢いよく上げて悲惨な経験をした人も少なくないだろう。間隔的には不自然なようだが、じつは日本でも、上げて水を出すタイプのものが復旧しつつある。きっかけは、1995年の阪神淡路大震災であった。地震の影響でレバーが下がって水が出しっぱなしになり、暖水を引き起こす事故が相次いだ。その結果、2000年に、JIS(日本工業企画)で欧米式に統一されたのである。

## 適切な文体の選択

- 「です・ます」体には、書き手と読み手との関係を限定化する作用がある。そのため、レポート・論文では「である」体を用いる。
- 読み手を説得するためには、客観的姿勢を示す必要がある。
- このことは、内容面だけでなく、それを盛り込む文体についてもあてはまる。可能な限り私的な印象を読み手に与えない、ニュートラルな文体で書く必要がある。

## 避けたい表現

「(私は) ...だと考えた」

「(私は) ...だと考えてみた」

「... だと思う」

「... だなあと思う」

「... と知って驚いた」

「個人的な考えだが、...」

「(授業で教員がしていた話は)ちょっと違う気がする」

⇒主語は「私は」ではなく、「このレポート(この論文)は」  
という形を意識する！

## 科学的論文の型 「IMRAD」

**I**ntroduction (導入: 目的と先行研究)

**M**aterial & **M**ethod (資料と方法)

**R**esult (結果と分析) **a**nd **D**iscussion (考察)

## 「問う」ことの重要性

- 論文とは自分で問いを立てそれに答える文章のこと。
- 論文では、研究上の問いすなわち**リサーチ・クエスチョン** (research question)を明確に示すこと。
- 問いは、原則、**疑問文を含む1文**で示される必要がある。

## 「問い」を立てるポイント

- 問いは論証でき、答えが出せるものでなければなりません。
- 問いは自分で立てなければなりません。
- 問いは学術的価値があるものでなければなりません。

## 課題

(1)自分がこれから着手する研究について、何を対象にした研究か、テーマを明らかにしてください。過去のレポート課題を思い出して書いてもかまいません。

(2)自分の研究の問い(リサーチ・クエスチョン)を**1文**で表してください。

## 課題

(3)自分の研究の問いが、より具体的なものになるように問いを絞りこんでください。

(4)自分の研究の問いについて、そこで使われている専門用語の定義をしてください。

# 今後の予定

## ■第2回 準備編

事例から「良いレポート」を書く方略を知ろう

①2018年11月19日(月) 16:30～18:00

②2018年11月21日(水) 16:30～18:00

## ■第3回 執筆編

出典を示して文献を正しく「引用」しよう

①2018年12月3日(月) 16:30～18:00

②2018年12月5日(水) 16:30～18:00

## ■第4回:仕上編

文章と書式を整えてレポートを「仕上げ」よう

①2018年12月10日(月) 16:30～18:00

②2018年12月12日(水) 16:30～18:00